

※定員のある事業については、6月1日から（午前9時から午後5時まで、日・祝は除く）受付します。先着順のため定員になりしだい締め切ります。幼児については、保護者同伴をお願いします。必ず上靴を持ってきてね！

日	時間	事業名	内容	定員
6月 2日(土) 9日(土) 16日(土) 23日(土) 30日(土)	15:00 〃 17:00	子ども広場	「将棋広場」 ～初めての人・少しでも興味を持った人は、気軽に参加してください～ 対象：おおむね小学1年生～6年生 ※開催日が変更になる場合があります。	なし
6月21日(木)	10:00 〃 11:30	子育てセミナー	「親子体操」～親子で楽しく体を動かそう！～ 講師：山本尚明氏（体育文化指導協会） 場所：青少年児童センター体育館 持ち物：水筒・タオル・着替え・親子とも体育館シューズ ※定員はありませんが、初めての方は事前に申込が必要です。	なし
6月23日(土)	10:00 〃 11:30	おもしろ教室	「ジャンピングバット」～輪ゴムと割り箸を使ってバットを飛ばそう！～ 対象：幼児・小学生（ただし、幼児と小学1年生は保護者同伴） 持ち物：はさみ・のり	15人
6月28日(木)	10:00 〃 11:30	子育てセミナー	「絵本講座」～絵本でゆっくり子育て～ 講師：高橋篤子氏（ほろぶフォーラム大阪事務所） ※詳しくは、29ページをご覧ください。	親子 20組

サラダボール

第59回中学生人権作文コンテスト 優秀賞受賞作品

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会主催

差別の本当の意味

誉田中学校 2年 上本 敦司

差別とは辞書で調べると、差をつけて区別したり分けへだてたりすることとあった。その通りに考えてみると、この世の中に差別というものはいくらもあるとぼくは思う。その中でぼくは障害を持った人について考えることにしました。

ぼくは生まれた時からエンゲルマン病という病気で、歩き方が少し変わっています。ぼくは普通に歩いているつもりなのに、視線を感じたり指差されたりすることもあります。

実はぼくの弟もぼくと同じ病気です。その弟からこんな話を聞いたことがあります。弟が小学一年生との交流があった時、一年生の子供たちから弟に

「歩き方がおかしいけど、どうしたん。」と言われて弟は

「病気やねん」と言ったそうです。すると一年生は、

「どんな病気なん。これからどうなるの。」

といっぱい聞いてきたそうです。

たまに知らない大人の人としゃべるのですが、その大人の人の中に気の毒だから病気のことは絶対にしゃべらない様にと、気をつかしながらしゃべる人がいます。健康な人から見ると、こういう風にしゃべるのが障害者にとって一番良い様に思えます。ですが、障害者から見るとこのしゃべり方より、さっきの一年生のしゃべりの方が接しやすいとぼくは思います。なぜ、そう思うかというと、もう一度その人と話す時、一年生の子供たちはもう僕の病気の事を知っているから、安心して病気の事をくわしく話したりできます。けれど、この大人の人ともう一度話すとすると病気の事を相手は知らないから、気をつかしながら話さなければなりません。また、気の毒と思われるかも知れないと思い、うちとけられず、話が盛り上がらないので、いやなムードになるとも思います。

障害を持ったぼくにとって、一番いやな事は気の毒だと思われる

事です。世の中の人達から見ると、障害者はやっぱり気の毒で不幸だと思います。しかし、障害を持ったからといって百パーセント不幸ではありません。なぜかという、ぼくやぼくの弟がもし、健康に生まれて、元気に育ち、目の前に障害を持った友達がいたとします。その友達に話しかける時、どうしたのと病気の事を素直に聞けなかったかも知れないからです。しかし、障害を持っていて、友達と同じ立場だとためらわずに病気の事が聞けて親友にもなれるかも知れません。障害を持ったからこそ、こんな考え方ができたり、素敵な友達ができたりする。だから、障害者はむしろ幸せなのかもしれないとぼくは思います。世界にはたくさんの障害者がいます。しかし、その全ての障害者を気の毒で不幸だと思わないでください。そう思うことが本当の差別だとぼくは思います。